

令和6年度 学校自己評価表 海田町立海田中学校
学校教育目標 「考え、実践する」 ～ 自律、尊重、挑戦 ～

中期経営目標		評価項目	評価指標	評価基準				自己評価（最終）		
				A	B	C	D	最終値	評価	結果と課題の分析
				目標達成	ほぼ達成	もう少し	できていない			
確かな学力の定着と向上	主体的・協働的 表現するための 授業改善	◎主体的に学ぼうとする学習意欲の向上 （自律・挑戦）	◇学校生活アンケート（生徒）で、「授業では、自分の考えを積極的に伝えています」と肯定的に回答する生徒の割合 （選択する力・表現する力）	75%以上	70%以上	50%以上	50%未満	67.8%	C	生徒が「伝えたい」と思える学級集団づくりをしていくために、人の話を聞く姿勢を指導していく。人の意見に対する反応によって、意見を出しやすい雰囲気ができることを生徒に伝えていく。また、班活動での話し合いを活発化させるために、班長の話し合いの司会の力を育成していく。
			◇学校生活アンケート（生徒）で、「『授業では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしています。』を授業の中で意識しています」と肯定的に回答する生徒の割合（選択する力・表現する力）	75%以上	70%以上	50%以上	50%未満	86.7%	A	全体や班活動、ペア活動において、周りの意見と自分の意見を比較して、新たな学びにつなげようとする意欲が高まっている。今年度の研究のテーマでもある発問の工夫により、生徒が考えを深めたり、広めたりする場をつくれていることが成果につながっていると思われる。引き続き、生徒の思考を深めさせる発問の工夫を意識した授業づくりを目指していく。
		◎「読む文化」を生み出す学校づくり （自律）	◇各学期における図書室の本の、一人当たりの貸出冊数（認識する力・選択する力）	5冊以上	3・4冊	2・1冊	0冊	全2.1 ①3.3 ②0.8 ③2.3	C	生徒が本に関わる取組として、文化祭では本の内容に応じたイメージ画の作成と図書委員会による本の展示を行った。また、12月の読書月間には図書館クイズ「謎解き」や読書マラソンを実施した。1年生に効果的な取組だった。1月からは図書室おみくじを行っており、継続して生徒が本に関わる取組を行い、生徒の読書意欲を高めた。
		◎確かな学力の定着 （自律）	◇全国学力調査及び標準学力検査で全国平均を超えることのできた学年・教科の割合	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	(標準学力) 教科1/2学年 国 -0.3/+0.2 数 +2.5/-0.1 理 +1.6/-6.9	C	国語については、読み書きなどの基本は定着しているが、読解問題については、読み取りに課題がある。数学については、基礎的な知識の定着はみられるが、関数分野に課題がある。国語・数学については、継続して基礎的な知識・技能を高めるとともに、読み取りや問われている内容を捉える指導を徹底していく。理科については、特に2学年の基礎的な知識の定着に課題が見られるので、ドリル学習などで基礎的な知識の定着を図っていきたい。
人間性豊かな生徒の育成	自己生き生きと自律的に 主体的に生活の動し、 育成	◎自己実現力・自己効力感の向上 （尊重）	◇道徳意識調査で、「自分にはよいところがあります」と肯定的に回答する生徒の割合 （認識する力）	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	全86.6 ①87.6 ②87.4 ③84.8	A	中間の結果と大きく変化はなく9割弱の生徒が肯定的な回答をしている。一方で、自分のよいところが認められるという質問項目に対する肯定的回答が、中間よりも7ポイント上がっており自分のよさを見つける場面が日々の生活や行事等であったと推察する。そのような場面をしっかりと振り返り自分のよさに気づき、自信をもつ教育活動を進めていきたい。
		◎海田町を愛する生徒の育成 （尊重）	◇学校生活アンケートで、「海田町に今後も住み続けたいと思う」と肯定的に回答する生徒の割合 （選択する力）	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	全85.8 ①92.5 ②84.5 ③79.8	A	アンケートの結果から8割以上の生徒が海田町に愛着を感じているとわかる。中学校において、海田町のよさを暮らしや自然などの観点から考えさせ、総合的な学習の時間での職場体験や保育実習などにより、故郷海田のよさを再認識させることができたのだと考えられる。今後、職場体験の訪問先をさらに広げ、海田町の企業に職場訪問や職業講話をお願いしていきたい。
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の定着と 体力・運動能力の向上	◎規則正しい生活習慣 （自律）	◇保健のアンケートで、適切で十分な睡眠時間（7～8時間程度）をとっていると判断される生徒の割合 （選択する力）	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	全72.4 ①76.6 ②77.0 ③64.1	B	学年末になると23時以降に寝ている生徒が45.1%から48.2%に増加し、睡眠時間も短くなっている。冬休み中のアンケートでは、55.3%が23時以降に寝て、89.3%が7時間以上の睡眠をとり、43.1%が8時以降に起きている。睡眠時間の確保だけでなく、寝る時刻を固定し、規則正しい生活習慣が身に着くように、実態把握と指導を行っていききたい。
		◎体力の向上 （挑戦）	◇体力テストで、全国平均・県平均を上回る項目の割合	70%以上	60%以上	40%以上	40%未満	中学2年生 男子 78% 女子 100%	A	「運動やスポーツをすることが好きですか？」という問いに対して肯定的評価が8割を越えていることから、体育の授業に対しても意欲的に積極的に参加する生徒の割合が高い。その結果、体力の向上を図ることができている。また、運動部での日タレーニングで体力をつけることもできているので、全国平均・県平均を上回る項目の割合が目標値を超えていると考えられる。
信頼され 学校づくり 支持される	保護者や地域 からの信頼 と働き方改革 がい	◎保護者・地域の学校満足度の向上	◇学校生活アンケートで、「海田中学校の教育活動に概ね満足している」と肯定的に回答する保護者の割合	90%以上	80%以上	70%以上	60%未満	94.7%	A	生徒、学校、保護者の良好な関係を基盤として、丁寧な連携や対応ができていることが要因として考えられる。引き続き、この関係を維持しながら、学習指導のさらなる充実を図り、より良好な関係にしていきたい。
		◎教職員のやりがい （自律・尊重・挑戦）	◇学校生活アンケート（教員）で、「私はこの学校に満足している」と肯定的に回答する教員の割合	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	96.7%	A	職員室における教職員のコミュニケーションが活発であるだけでなく、誰に対しても話しやすい雰囲気があり、心理的安全性が確保できている。その中で、学習指導、生徒指導、部活指導について意見交流をすることができていることが本結果につながっていると考ええる。
		◎働き方改革の推進 （自律）	◇学校生活アンケート（教員）で、「月に2回以上は定時退校日に早く退庁している」と肯定的に回答する教員の割合	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	70.0%	C	日々の授業準備、試験作成、生徒指導、学校行事の準備や運営、教育委員会等に提出する資料の作成、部活指導、保護者対応、欠席生徒への連絡等、多岐にわたる業務とその量をこなすことが容易ではなく、定時退校日を設定しても、定時に退校することが難しい状況がみられた。